

授業科目名	世界遺産論
科目番号	OATV001
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB水2,3
担当教員	黒田 乃生, 飯田 義彦, 池田 真利子, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 滝沢 誠, 武正憲, 野中 勝利, 松井 圭介, 松井 敏也, 八木 春生, 吉田 正人
授業概要	世界遺産学位プログラムの教員全員の研究内容の紹介。遺産の評価と保存、マネジメントとプランニング、国際協力などについての討論を通じて、研究に必要な基本的視点を確立する。また最新の遺産の保護と活用の事例に関する報告、文化遺産・自然遺産保護の現場の訪問を通じて研究の先端に触れる。履修する大学院生は、最も関心を抱いている文化遺産・自然遺産の分野を選び、研究対象となりうる課題について発表することを求められる。
備考	01EC401と同一。 オンライン(同時双方向型) 対面 希望者はオンライン受講可能
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性、共通知の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力、国際実践力
授業の到達目標(学修成果)	世界遺産の保護の基盤となる理念を確立し、技術的体系を実現するという世界遺産学の総論と事例紹介を行う。そして学生たちは、世界遺産研究に必要な研究の基本的視点について議論をすることができるようになる。
授業計画	第 1 回~第 10 回 世界遺産専攻の教員全員の研究内容の紹介。遺産の評価と保存、マネジメントとプランニング、国際協力などについて討論を通じて、研究に必要な基本的視点を確立する。また最新の遺産の保護と活用の事例に関する報告を通じて研究の先端に触れる。 第 1 回ガイダンス 第 2 回履修者によるプレゼンテーション 1 第 3 回履修者によるプレゼンテーション 2 第 4 回 研究倫理 第5回 世界遺産と持続可能性について 第6回 各分野(国際遺産学、文化遺産の評価と保存、遺産のマネジメントとプランニング)の紹介 第 7 回〃 第 8 回〃 第 9 回履修者による 研究テーマ発表 1 第 10 回履修者による 研究テーマ発表 2 世界遺産保護の理念とともに、世界遺産研究に必要な基本的視点を確立できるようにする。
成績評価方法	授業中の積極性(30%)と発表内容(70%)の割合で評価する。発表は、授業の内容を理解し、授業目標に到達していることを評価基準とする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	授業の内容理解度を深めるため、授業終了後に次の授業までに読むべき文献を適宜指示する。
オフィスアワー等(連絡先含む)	授業の終了後に、希望する教員と面談をする時間を決める。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意)	自らと異なる分野についても興味を持ち、世界遺産専攻の教員、学生たちが何を目標として様々な活動をしているかを考えて欲しい。

点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	TAによる学習指導、補助
キーワード	世界遺産学

授業科目名	世界遺産特別演習
科目番号	OATV002
単位数	3.0 単位
標準履修年次	1 年次
時間割	通年随時
担当教員	黒田 乃生, 飯田 義彦, 池田 真利子, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 武 正憲, 松井 敏也, 八木 春生, 吉田 正人
授業概要	専門書、先行研究の論文の講読等を通じて、自らの研究テーマを決定する。論文講読を通じて、論文執筆の基礎を身につけると同時に、研究倫理に関する基礎的な常識を身につける。履修する大学院生は、年2回、演習の中間および最後に、自らの修士研究テーマについて発表することを求められる。
備考	01EC405と同一。 オンライン(同時双方向型) 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性、共通知の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力、国際実践力
授業の到達目標(学修成果)	専門書、先行研究の論文の講読を通じて、自らの研究テーマを決定する。専門書、先行研究の論文の講読を通じて、論文執筆の基礎を身につける。
授業計画	専門書、先行研究の論文の講読等を通じて、自らの研究テーマを決定するとともに、論文執筆の基礎を身につける専門書、先行研究の論文の講読等を通じて、自らの研究テーマを決定するとともに、論文執筆の基礎を身につける。 *2 回 (11 月、2 月頃) 修士研究テーマ発表会
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	指導教員の指導を随時受けながら研究をすすめること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	修士研究

授業科目名	文化遺産演習
科目番号	OATV102
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	夏季休業中集中
担当教員	黒田 乃生
授業概要	本演習は世界文化遺産の保護の現状について体験を通じて学ぶことにある。1995年に世界遺産リストに登録された「白川郷五箇山の合掌造り集落」およびその周辺集落において維持管理活動の体験および実際に文化遺産がある地域で生活する関係者、文化財保護の担当者、まちづくりの団体との交流や聞き取りを通して、世界遺産保護の手法を学び、意義および課題について考察する。現地実習の前には現地について学ぶ課題を提出し、実習後には演習で体得した文化遺産保護の課題についてレポートを提出させる。
備考	01EC519と同一。 9/17-9/20 オンライン(同時双方向型) 対面 「世界遺産学学位プログラム コロナ感染対応 ガイドライン」に従って実施
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の活用力」「マネージメント能力」「コミュニケーション能力」「チームワーク力」「国際性」「共通知の活用力」「専門知の活用力」「共通技能の活用力」「専門技能の活用力」「国際実践力」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	世界文化遺産およびその周辺での維持管理活動の体験を通して、世界遺産保護の手法を習得する。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス1日(大学) 課題説明 ・現地実習:5名以下のグループで、9月中を予定(2泊3日) 現地実習(白川郷・五箇山の合掌造り集落など) ・日程は別途連絡 ・世界遺産地域で管理のために必要な作業や農作業を体験する ・地域の方との交流を通して、世界遺産保護の理念と実態について考察する ・成果発表1日(大学) <p>なお、コロナ感染症拡大の状況が悪化している場合は、オンラインツアーの作成に変更する。 変更の有無はガイダンスまでに決定し、manabaを通じて連絡する。</p>
成績評価方法	実習前のレポート40% 実習後のレポート60%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	対象地域に関する事前学習と課題および体験終了後のレポート
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	芸術学系棟B401 オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡をしてから訪問すること
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	対象地域の地理と歴史、世界遺産の価値について事前学習をすること
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	世界文化遺産, マネジメント, まちづくり, 景観保全

授業科目名	自然遺産演習
科目番号	OATV104
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	夏季休業中集中
担当教員	吉田 正人, 武 正憲
授業概要	自然遺産地域における現地調査を通じて、自然遺産地域の保全と管理、およびそれに対する地域住民や専門家の参加について学ぶ。自然遺産地域の管理計画、科学委員会・地域連絡会議を通じた専門家、地方自治体、地域住民、NPOなどの役割分担と協働、外来種対策やエコツーリズムなどの事例を現地調査から学ぶ。
備考	01EC539と同一。 8/27-9/1
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力 2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力 3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力 4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力 5. 国際性: 国際社会に貢献する意識
授業の到達目標（学修成果）	世界自然遺産小笠原諸島を事例として、世界遺産の管理計画と行動計画、希少種の保護と外来種対策、国立公園と森林生態系保護地域との関係、エコツーリズムの推進と観光管理などについて学び、世界自然遺産管理の理論と方法を習得する
授業計画	8月27日～9月1日の8泊9日間、小笠原諸島父島/母島を訪れ、世界遺産小笠原諸島の保全と管理に関して、環境省、林野庁、小笠原村などの関係者から聞き取りを行い、また南島を訪れるエコツアーに参加して、エコツーリズムのあり方を学ぶ。 8月27日午前11時東京竹芝桟橋発、28日午前11時父島二見港着、東京都ビジターセンター、環境省世界遺産センター、小笠村役場訪問、29日 NPO小笠原自然文化研究所ネコ待合所、林野庁アカガシラカラスバトサンクチュアリ訪問、30日 小笠原海洋センター（ウミガメ）、東京都水産センター訪問/ 南島・ドルフィンスイミングツアー参加、8月31日15時父島二見港発、9月1日午後3時東京竹芝桟橋着
成績評価方法	出発前の事前学習会におけるレポート、演習後のレポートをもとに成績をつける
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	出発前の事前学習会に必ず参加し分担したテーマに関するレポートを作成する。
教材・参考文献・配付資料等	1. 吉田正人, 世界遺産を問い直す. 山と溪谷社 2. 有川紀美子, 小笠原が救った鳥: アカガシラカラスバトと777匹のネコ. 緑風出版 3. 有川紀美子・鈴木創, オガサワラオオコウモリ 森をつくる. 小峰書店 4. 有川紀美子, 小笠原自然観察ガイド. 山と溪谷社
オフィスアワー等（連絡先含む）	木曜日 1300-1700 人文社会学系棟B212 吉田 正人 yoshida_masahito at heritage.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	

キーワード	世界自然遺産，管理計画，行動計画，固有種・希少種の保護，外来種の管理，国立公園，森林生態系保護地域，アカガシラカラスバト，ノネコ，エコツーリズム
-------	--------------------------------------------------------------------------

授業科目名	世界遺産特別講義
科目番号	OATV108
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋ABC集中
担当教員	上北 恭史, 吉田 正人
授業概要	世界文化遺産ないし関連遺産の学際研究及び保存・活用の現状と課題を学ぶ。本授業は、世界文化遺産の保護に長年にわたって携わってこられた専門家を講師に招き、その経験と知識を学ぶ集中講義である。講師は、富士山の世界文化遺産登録に携わった専門家など、世界遺産条約に関して深い経験を持った方を講師として招聘する。
備考	01EC561と同一。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	
授業計画	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	Project Practice in World Heritage(世界遺産演習)
科目番号	OATV208
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	夏季休業中集中
担当教員	飯田 義彦, 池田 真利子, 吉田 正人
授業概要	国内外におけるフィールド実習を通じて、遺産保護と持続可能な開発のバランスを取るための方策について、現地の関係者の取組や国際的な視点の双方から学ぶ。
備考	石川県白山市 英語で授業 9/11-9/16 英語で授業。 9/11-9/16
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性、共通知の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力、国際実践力
授業の到達目標（学修成果）	2021年9月11日～16日（予定）の日程で、白山ユネスコエコパーク（石川県白山市）を訪問し、ユネスコエコパークの3つの機能に即して、白山国立公園内のモニタリングや自然環境保全の取組事例、国際教育活動、さらに地域づくりの実践者から山村の文化と生活の保全に向けた課題と可能性を学ぶ。 The participants will be expected to learn the concept and practical activities related to three functions of Mount Hakusan Biosphere Reserve regarding to ecological monitoring in Hakusan National Park, collaborative nature conservation activities, international educational program and also to communicate with local practitioners to consider of challenges and possibilities for the conservation of mountain culture and lifestyle.
授業計画	以下の関係先との交流やワークショップ等を予定している。 ・白山ユネスコエコパーク協議会 ・NPO法人白山しらみね自然学校 ・NPO法人環白山保護利用管理協会 ・白山国立公園自然保護官事務所 ・石川県白山自然保護センター ・石川県立白山ろく民俗資料館 ・金沢大学国際機構 など The participants will communicate and discuss with the resources persons such as; - Mount Hakusan Biosphere Reserve Council - NPO Hakusan Shiramine Nature School - NPO Association for Conservation of Circum-Hakusan Area - Park ranger office, Hakusan National Park - Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa prefecture - Hakusan Folk Museum, Ishikawa prefecture - Organization of Global Affairs, Kanazawa University etc.
成績評価方法	実習内に行う英語でのプレゼンテーションをもって成績をつける Scoring of presentation in English in the course
学修時間の割り当て及び授業外における学修	

方法	
教材・参考文献・配付資料等	Iida, Yoshihiko and Nakamura, Shinsuke (2016). Mount Hakusan Biosphere Reserve: Creating a new path for communities and nature. UNU-IAS OUIK Biocultural Diversity Series. United Nations University. (https://collections.unu.edu/view/UNU:5612)
オフィスアワー等（連絡先含む）	Mail to: iida.yoshihiko@heritage.tsukuba.ac.jp (Yoshihiko IIDA) 飯田 義彦
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	実習中は、地元関係者や自然環境への尊敬を持ち、社会人としての一般的な節度を守ってください。 Please keep your mind to respect local stakeholders and natural environment and to exercise general societal rules on the way of fieldwork.
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	UNESCO Biosphere Reserve, ecosystem conservation, monitoring, sustainability of mountain society, youth engagement, geopark

授業科目名	建築遺産演習
科目番号	OATV302
単位数	3.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋ABC集中
担当教員	下田 一太
授業概要	建築遺産や周辺環境、建築と人との関係性を測量、記録し、図面化する手法について実践を通じて学ぶ。また、それらの記録や各種表現を、建築遺産やその地域の保存や活用のために利用し、提案を関係者に共有し議論する一連の過程を経験する。それらの過程において、建築遺産の研究や修復、活用における幅広い課題を理解し、建築の構造や意匠、技法の特質、建築空間の利用方法等を調査・分析する能力を養う。多様な専門的知識や技術を横断的に連携し、取り組む必要のある建築遺産の保存と活用の体験を通じて、多様な関係者と協働し、建築遺産の保護と活用に寄与することができるようにする。
備考	学外の建築遺産にて対面で実施 01EC556と同一。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	本演習では「知の活用力」「マネージメント能力」「コミュニケーション能力」「チームワーク力」「国際性」「共通知の活用力」「専門知の活用力」「共通技能の活用力」「専門技能の活用力」「国際実践力」の向上に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	建築遺産を対象とした保全事業(保存・修復・活用)の実習を通じて、世界遺産における多様な課題への対策について実践的な体験が得られる。歴史的な建築や伝統的建築群地区における研究や、それらの保存・活用において幅広く課題を発見し、調査・分析する能力が向上する。
授業計画	茨城県と都内における建築遺産を対処として、日帰りでの演習を複数回実施する予定であるが、コロナウイルスの感染拡大状況に基づいて変更する可能性もあるので、留意されたい。 演習予定日:11月20日(金曜日),11月27日(金曜日),12月5日(土曜日),12月12日(土曜日,予備日として) 演習予定地(以下の4サイトを候補地としコロナ禍での感染防止対策を鑑みて3サイトにて実施): 民家の実測調査 歴史文化基本構想・日本遺産の認定地での実習 行政発掘調査の現場視察 歴史的建造物が群となる地域での実習
成績評価方法	実習期間と事後の調査整理における熱意(50%)と、最終的な成果物(50%)によって評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	調査対象地に対しては関心を持って関連する情報収集・事前学習を行い、自らより充実した成果が上がるべく努力と工夫に励んでほしい。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡をしてから訪問すること。 shimoda at heritage.tsukuba.ac.jp

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	建築遺産の保存と活用，建築史，重要伝統的建造物群保存地区，考古学，民家，博物館

授業科目名	遺産整備計画演習
科目番号	OATV402
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB集中
担当教員	上北 恭史
授業概要	遺跡や歴史保存地区などで実施されている遺産保護・活用事例に触れ、保存事業や地域再生、観光事業について考察を行い、遺産の保護と活用計画の立案について習得する。授業目標として、遺跡や歴史保存地区で行われている保存活動の実例について学び、保存や再生、活用方法について詳しく考察を行う。さらに遺産整備計画を立案できる能力をつける。到達目標として、遺産保存の実例に触れ、法律、条例、保存計画棟の保存制度を手がかりに遺産保護の具体的手法について分析できるか確認する。また保護されている遺産の状況を分析し、保護における問題点や利用の手法を提案できる能力をレポート等で確認する。
備考	01EC563と同一。 4/16,4/23,5/14,5/21,5/28,6/4,6/11
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性、共通地の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力
授業の到達目標（学修成果）	遺産保存の実例に触れ、法律、条令、保存計画等の保存制度を手掛かりに、遺産保護の具体的手法について把握する。また保護されている遺産の状態を分析し、保護における問題点や利用の手法について把握する。
授業計画	第1回 4月16日(金) 学内:土浦古地図による探索の説明 第2回 4月23日(金) 学外:土浦亀城地区見学 第3回 5月14日(金) 学外:遺産整備手法の実例見学(国指定史跡小田城・平沢官衙遺跡、国登録有形文化財矢中邸) 第4回 5月21日(金) 学内:歴史的建造物の活用手法の講義(大平先生) 第5回 5月28日(金) 学外:伝統的建造物群保存地区の保存手法(大平先生)(国選定川越重要伝統的建造物群保存地区) 第6回 6月4日(金) 学外:伝建地区における活性化事業の見学(国選定佐原重要伝統的建造物群保存地区) 第7回 6月11日(金) 学外:TF授業 無形遺産の保存整備について
成績評価方法	各演習における提出物およびレポート
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	学外での演習の前に配布資料等で事前に対象地について学習しておくこと。また演習対象地の文化遺産の種類に応じて歴史的背景、社会的問題点、保存状況について調べておくこと。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	研究室:共同研究A棟204-1 オフィスアワー 木曜日10:00-12:00
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	演習はさまざまな形式の遺産の保存、修理現場で実施する。演習先の遺産について、事前に歴史的背景、遺産の価値、保存の経緯、などについて把握しておくこと。文献等で事前学習をすること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチング	TAについては博士後期課程学生が担当し、学習指導と補助を行う。また無形遺産保存をテーマにしたTF授業を実施する。

アシスタント (TA)	
キーワード	保存計画, 修理と整備, 遺産の活用, 保存調査, 利活用

授業科目名	文化的景観論
科目番号	OATV403
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB火4
担当教員	黒田 乃生
授業概要	遺産としては比較的新しい概念である文化的景観について、景観の概念の変遷、世界遺産における文化的景観をめぐる議論と現状、日本の文化財における文化的景観の定義と保護、景観と社会の関係などの基礎的な知識の習得に加え文化的景観の評価および保全に関する事例を紹介する。講義全体を通じて他の文化遺産と文化的景観の特徴の異同を考究するための緒を与える。保全や概念について国内外の相違を紹介し、履修生とのディスカッションを通じて文化的景観の曖昧さや保護の課題について自ら考えることができるようにする。
備考	01EC518と同一。 オンライン(同時双方向型) 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「知の活用力」「コミュニケーション能力」「国際性」「専門知の活用力」「共通技能の活用力」「専門技能の活用力」に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	文化的景観について、景観の概念の変遷、景観と社会の関係、文化的景観の定義などの基礎的な知識を学び、景観保全のありかたについて考察することにより、まちづくりやデザインに活かす事ができるようになる。
授業計画	講義100% とする。 第1 回景観とは何か 第2 回文化的景観の概念 第3 回世界遺産の文化的景観 第4 回名勝と風景 第5 回史跡整備 第6 回景観要素と修景 第7 回「社会」と「景観」 第8 回事例1:奄美大島 第9 回事例2:石見銀山遺跡とその文化的景観 第10 回事例3:白川郷・五箇山の合掌造り集落
成績評価方法	課題提出による
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	各回の内容について自らの考えをまとめる小レポートの作成による復習
教材・参考文献・配付資料等	各回の教材、配布資料はmanaba に掲載する
オフィスアワー等(連絡先含む)	研究室:芸術学系棟B401 オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡をしてから訪問すること
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	文化財, 世界遺産, まちづくり, 建築, 造園

授業科目名	遺産観光論
科目番号	OATV404
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB月4
担当教員	伊藤 弘
授業概要	観光に関する用語や意義、歴史的かつ現状の課題および計画論等に関して概説を行うと同時に、観光の対象となる文化資源や自然環境について、世界遺産や指定文化財、自然公園など制度上の評価に捉われない評価の考え方を整理する。利用と保護が持続的に同時に求められる、自然および文化を活かし続ける観光のあり方や取り組み手法、それに基づく観光地整備の考え方について、具体の事例を取り上げながら、その効果と課題を踏まえて考察する。
備考	01EC533と同一。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力:高度な知識を社会に役立てる能力、コミュニケーション能力:専門知識を的確に分かりやすく伝える能力、国際性:国際社会に貢献する意識、共通知の活用力:文化・自然遺産保護に共通する知識を社会に役立てる能力、専門知の活用力:文化・自然遺産に関する高度な知識を社会に役立てる能力、共通技能の活用力:文化・自然遺産保護に共通する課題の解決に対応する能力、専門技能の活用力:文化・自然遺産保護の専門的課題の解決に対応する能力。
授業の到達目標(学修成果)	自然遺産、文化遺産を対象とした観光に対して、課題を見出すことができるようになる
授業計画	第1回と第2回で概要と歴史を俯瞰したうえで、第3回以降は各論をみていく。第10回は、教員が携わったり進行中の取り組みを紹介する。 第1回 遺産観光とは(ガイダンス) 第2回 観光の歴史 第3回 観光資源 第4回 イメージ・メディア 第5回 観光欲求・行動 第6回 空間と景観 第7回 観光政策・行政 第8回 観光と地域づくり 第9回 観光計画 第10回 事例紹介
成績評価方法	課題(レポート)。授業の内容を理解し、授業目標に到達していることを評価基準とする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	観光地において、対象地の自然・歴史・文化を意識しながら観光体験し、批判的に感想を考えてみる。
教材・参考文献・配付資料等	講義内で紹介
オフィスアワー等(連絡先含む)	火曜 14:00~16:00 hiroito at heritage.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意)	自然遺産・文化遺産を活用した観光地を訪れ、批判的な態度で観光体験をしてみてください。

点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	自然遺産・文化遺産, 観光資源, イメージ・メディア, 風景・景観

授業科目名	プランニング演習
科目番号	OATV405
単位数	3.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	夏季休業中集中；秋A集中；秋B集中
担当教員	伊藤 弘
授業概要	自然および文化を、住民および来訪者がより深く理解できるような持続的な利活用方策に関して、特定の資源を対象に、広域的な周辺環境および対象資源について、課題の整理からテーマの設定、計画案の策定に至る一連の作業をグループワークを通して体験し、計画の考え方や作業の流れ、評価方法を理解する。また、毎回進捗報告会を実施することで、各自の考え方や主張を他者に分かりやすく伝えるプレゼンテーションのやり方と、計画案に関するディスカッションを体験する。
備考	白川郷・五箇山 01EC560と同一。
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力:高度な知識を社会に役立てる能力、マネジメント能力:広い視野に立ち課題に的確に対応する能力、コミュニケーション能力:専門知識を的確に分かりやすく伝える能力、チームワーク力、チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力、国際性:国際社会に貢献する意識、共通知の活用力:文化・自然遺産保護に共通する知識を社会に役立てる能力、専門知の活用力:文化・自然遺産に関する高度な知識を社会に役立てる能力、共通技能の活用力:文化・自然遺産保護に共通する課題の解決に対応する能力、専門技能の活用力:文化・自然遺産保護の専門的課題の解決に対応する能力、国際実践力:国際的視野を持って、文化・自然遺産の保護に取り組む意識。
授業の到達目標（学修成果）	各種観光計画の内容を評価できるようになる。地域資源を把握し域資源を把握し、資源を把握し、それを活かす観光計画を提案できるようになる。
授業計画	大きく前半と後半に分けて行う。前半は観光の観点から、対象となる遺産資源に関して現状分析を文献およびGISを用いて行う。 後半は課題抽出から目標設定・計画立案の作業を行い、計画案をプレゼンテーションする。 第一回 ガイダンス。対象地に関して、特定のテーマで調査し取りまとめる(個別) 第二回 現地演習。現地で観光の現状を把握し、役場担当官のお話を聞く(2泊3日) 第三回 現状の整理および課題抽出。計画テーマの設定(グループワーク) 第四回 計画目標の設定(グループワーク) 第五回 目標を実現させるための利用計画および保全計画の立案・進捗報告(グループワーク) 第六回 目標を実現させるための利用計画および保全計画の立案・進捗報告(グループワーク) 第七回 目標を実現させるための利用計画および保全計画の立案・進捗報告(グループワーク) 第八回 最終報告(プレゼンテーション)(グループワーク) 第九回 計画報告書作成(グループワーク)
成績評価方法	計画策定への積極性30%。 演習で作成したプレゼンテーションおよび計画報告書70%
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	遺産観光論の履修

教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	火曜 14:00~16:00 hiroito at heritage.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	GISに慣れておくと作業がしやすくなる(本演習はGISを使うことが目的ではないが)
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	TA1人配置予定あり
キーワード	観光, GIS, 計画, プレゼンテーション

授業科目名	宗教論
科目番号	OATV105
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋C火3,4
担当教員	松井 圭介
授業概要	近年、注目を集めるようになってきている世界における宗教とツーリズムとの関係をめぐる研究動向を紹介しながら、日本の世界遺産を事例に両者の関係を整理・検討する。とりわけ、世界文化遺産に登録された紀伊山地熊野古道、長崎・雲仙の潜伏キリシタン関連遺産などの事例をもとに、宗教遺産が観光資源として対象化される過程やその問題点を考える。
備考	01EC515と同一。 オンライン(同時双方向型)
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、コミュニケーション能力、共通知の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力
授業の到達目標(学修成果)	日本の宗教状況と世界遺産に対する基本的知識の獲得。
授業計画	第 1 回イントロダクション(宗教研究のアプローチ) 第 2 回宗教的世界遺産とツーリズム (1) 聖地はいかに消費されているのか? 比叡山延 暦寺の事例 第 3 回宗教的世界遺産とツーリズム (2-1) ツーリストは何を消費するのか? ウルルの 事例 第 4 回宗教的世界遺産とツーリズム (2-2) ツーリストは何を消費するのか? 熊野古道 の事例 第 5 回宗教的世界遺産とツーリズム (3-1) 長崎におけるキリスト教 第 6 回宗教的世界遺産とツーリズム (3-2) ホスト地域と観光動態 第 7 回宗教的世界遺産とツーリズム (3-3) 世界遺産への動き 第 8 回宗教的世界遺産とツーリズム (3-4) 創造される聖地巡礼 第 9 回宗教的世界遺産とツーリズム (3-5) 場所の商品化の課題 第 10 回まとめ
成績評価方法	授業への参加態度および最終課題(レポート)により行う。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	積極的に文献を読み、知識を身につけること。
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	jiji at geoenv.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	積極的な受講態度
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	宗教, 観光, 世界遺産, 巡礼

授業科目名	世界遺産学インターンシップ
科目番号	OATV109
単位数	3.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	通年応談
担当教員	黒田 乃生, 飯田 義彦, 池田 真利子, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 武 正憲, 松井 敏也, 八木 春生, 吉田 正人
授業概要	遺産の保存と活用に関わる組織や現場において実地研修を行なう。インターンシップ先は、世界遺産保全に関する行政機関、研究所、テレビ局、博物館・美術館など多岐にわたるが、研修先の選択にあたっては、修士論文研究の主題との関連性に留意する。研修機関からの評価をい考慮して、インターンシップの成果を評価する。
備考	01EC501と同一。 その他の実施形態
授業方法	実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性、共通知の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力、国際実践力
授業の到達目標（学修成果）	遺産の保存と活用に関わる組織や現場において実地研修を行ない、遺産の保存と活用に関わる専門的な知識と技能を習得する。
授業計画	
成績評価方法	世界遺産学外研究（インターンシップ）プログラム報告書に、プログラム指導員からの評価を記入してもらったものを参考に評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	研修にあたっては、修士論文研究のテーマとの関連性に留意し、研修の成果を修士論文研究に生かすこと。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	Global Learning: Heritage, Creativity and Art (グローバルに学ぶヘリテージ, 創造)
科目番号	OATV110
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB月5
担当教員	池田 真利子, 上北 恭史, 松井 敏也
授業概要	<p>本科目は, 「Creativity and Art (創造性とアート)」をキーワードとし, ヘリテージ学に関わる文理横断的な学術・学際的研究視点を日本語と外国語で学ぶことにある。そこで, 「Designing Heritage Research」のテーマと関連付け, 各年の学生/教員の関心や時流に合ったテーマを設定し, 当該テーマに関する研究視点や事例, モデル等を学生と議論しながら解説する。</p> <p>なお2021年度は講義初年度のため, ヘリテージ学の「活用」に焦点を当て, 地理学(地域空間変容・都市文化・地域フィールド調査)・建築デザイン学(材料・構造・デザイン史・フィールド科学)・保存科学(行政協働・問題解決型科学・科学的調査手法)を中核とし, 上述の学域以外の研究者ら(メディア学・建築学・デザイン学等)も交えて, 概念・理論から実践的事例まで幅広く紹介し, 議論を行う。</p>
備考	<p>一定の基準を設け, 履修生数を限定する場合がある。【教学マネジメント室支援科目】英語で授業。</p> <p>オンライン(同時双方向型) 対面</p>
授業方法	講義及び演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	<p>【汎用コンピテンス】 知の創成力, マネージメント能力, コミュニケーション能力, 国際性</p> <p>【専門コンピテンス】 共通知の展開力, 専門知の創造力, 共通技能の展開力, 国際的開発力</p>
授業の到達目標(学修成果)	<p>全10回の講義により, 文理横断的視点と学際的科学知を学修できる。また, 「知りたいこと」の手段として英語・外国語を使用することで, 自然な国際的感覚が身につく。これにより, 「グローバル・ヘリテージスタディーズ(世界遺産学)」のフレキシブルな体系化の可能性を探る。</p> <p>A total of ten lectures will enable students to acquire a cross-disciplinary perspective and interdisciplinary scientific knowledge. In addition, the purpose-driven use of English will enable students to acquire a natural sense of internationalism. In this way, the possibility of a flexible systematization of "Global Heritage Studies" will be explored.</p>
授業計画	<p>仮</p> <p>4/12 ガイダンス(オンライン), 池田・上北・松井担当回の簡単な紹介と学生とのディスカッション</p> <p>4/19 池田担当回</p> <p>4/26 上北担当回</p> <p>5/10 松井担当回</p> <p>5/17 渡先生or北原先生</p> <p>5/24 渡先生or北原先生</p> <p>5/31 大谷悠(ライブチヒ日本の家)</p> <p>6/7 Anne Gross, Sebastian Gross (BTU)</p>

授業計画	6/14 Luise Rellensman (BTU) 6/21 ラウンドテーブル・予備日
成績評価方法	授業中の発言, およびレポート類の提出等により評価する。/ Evaluation will be based on comments made in class and submission of reports.
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	地理学・建築学・保存科学で使用される概念説明や基礎的な人文・科学知識に関して, 分からない場合には各自で文献に当たり, 理解に努めて下さい。なお, OATV111「Global Project: Designing Heritage Research(グローバルに考究するヘリテージ研究デザイン)」では, 『都市/建築フィールドワーク・メソッド』(INAX出版), 『東京裏返し』(集英社新書), 『江戸東京の都市組織に挑む』(彰国社), 『近代建築遺産の継承』(鹿島出版会), 『無形学へ かたちになる前の思考』(水曜社)等を参考書とします。 If you do not understand the conceptual explanations and basic humanities and scientific knowledge used in geography, architecture, and conservation science, please go to the literature and try to understand them on your own. In addition, OATV111 "Global Project: Designing Heritage Research" is based on the above mentioned literature.
教材・参考文献・配付資料等	各回で指示・配布します。/ Instructions and handouts will be given at each session.
オフィスアワー等(連絡先含む)	連絡教員宛て (marikoi@heritage.tsukuba.ac.jp) に連絡して下さい。/Contact to marikoi@heritage.tsukuba.ac.jp 池田 真利子
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	[2021年度] 講義は一部, 英語で実施予定です。/ Some lectures will be given in English.
他の授業科目との関連	OATV111 Global Project: Designing Heritage Research(グローバルに考究するヘリテージ研究デザイン)
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	なし/ None
キーワード	オンライン講義, 活用, 地域資源, 再評価, 産業遺産, 私有地, 空間, リユース&リサイクル, 持続可能性, 文理横断, 学際的科学, 学内留学

授業科目名	Heritage Theory and Policy Studies(国際遺産論)
科目番号	OATV201
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋A集中
担当教員	吉田 正人, 飯田 義彦, 池田 真利子
授業概要	歴史、哲学、公共政策など現代社会における遺産保護を総体的にとらえて講述する。世界遺産条約などの国際的な条約から各国の保護政策まで取り上げる。
備考	01EC537と同一。 10/15-10/16
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	
授業計画	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	

授業科目名	World Heritage and International Cooperation(世界遺産と国際協力)
科目番号	OATV203
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春BC集中
担当教員	飯田 義彦, 吉田 正人, 池田 真利子
授業概要	世界文化遺産・世界自然遺産に関わる国際協力の事例をもとに、文化遺産・自然遺産の保全に関わる国際的枠組みの成果と課題を学ぶ。合わせて、日本の国際協力に関する枠組みについても取り上げる。
備考	外部講師:長谷川基裕(JICA) 非常勤講師:長岡正哲(ユネスコ) 英語で授業。 6/25,7/13,7/20
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性、国際実践力
授業の到達目標(学修成果)	世界遺産の自然や文化の保護保全に関わる国際的な課題や問題解決のための協働についてアジアにおける国際協力事例から学び、自然や文化の遺産管理の現場において、国際機関(ユネスコ)や開発援助機関(JICA)が果たす国際協力の役割と協働のプロセスを理解する。 To understand the roles and process on international cooperation of UNESCO and Japan International Cooperation Agency (JICA) at the ground level in the field of natural and cultural heritage management through the case studies on international cooperation and practical skills for international collaborative project on the protection and conservation of both natural heritage and cultural heritage in Asian region.
授業計画	講義は2回に分けて行い、長谷川基裕氏(JICA)による森林保全分野の国際協力(6月後半)、長岡正哲氏(ユネスコ・プノンペン事務所)による遺跡保護分野の国際協力(7月後半)をテーマに外部講師による実践的な活動を学ぶ。 The course consists of two sessions given by different guest speakers: A case of forest conservation by Motohiro Hasegawa (JICA) in June and a case of preservation of historic site by Masanori Nagaoka (Phnom Penh Office, UNESCO) in July.
成績評価方法	プレゼンテーションやグループディスカッションの参加態度などにより評価を行う。 The students will be assessed by the content of presentation and participation attitude for group discussion in the course.
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	Mail to: iida.yoshihiko@heritage.tsukuba.ac.jp (Yoshihiko IIDA) 飯田 義彦

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	<p>世界遺産，文化遺産，自然遺産，協働，遺跡保護，森林保全，生物圏保存地域，持続可能な開発</p> <p>World heritage, cultural heritage, natural heritage, collaboration, preservation of historic site forest conservation, biosphere reserve, sustainable development</p>

授業科目名	World Heritage and Civil Participation(世界遺産と市民参加)
科目番号	OATV204
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB火5
担当教員	池田 真利子
授業概要	本講義では、1現在の世界遺産が直面する課題を的確に知り、2その背景にある地域の実情を多角的かつ分野横断的にみること、さらに3世界遺産の維持のために必要不可欠とされている市民参加の在り方を、世界遺産に限定せず、広くヨーロッパの遺産保存の在り方から探ること、4世界遺産の多様化、5EUにおける最新の文化遺産を巡る動向を理解することを通じて、世界遺産における市民参加がどのようにして実現され得るのかを考えることを目標とする。
備考	オンライン(同時双方向型) 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	In this lecture, participants will develop their own opinions about what kind of civil participation for World Heritage could be realised and in which way, by exploring international case studies of civil engagement and participation for the preservation of cultural heritage, and by understanding the upcoming heritage policies (inc. cultural and economic policy and urban regime) in the EU countries. In this course, students will be required to improve their academic communicational skills by sharing your opinions on each topic in the class. 知の活用力・コミュニケーション能力・国際性/共通知の活用力・専門知の活用力・共通技能の活用力・専門技能の活用力・国際実践力
授業の到達目標(学修成果)	In this lecture, participants will develop their own opinions about what kind of civil participation for World Heritage could be realised and in which way, by exploring international case studies of civil engagement and participation for the preservation of cultural heritage, and by understanding the upcoming heritage policies (inc. cultural and economic policy and urban regime) in the EU countries. In this course, students will be required to improve their academic communicational skills by sharing your opinions on each topic in the class.
授業計画	
成績評価方法	Evaluation through the protocol, short report, presentation as well as attendance and personal dedication to this course.
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	None, or it will be mentioned in the course.
教材・参考文献・配付資料等	None, or it will be mentioned in the course. None, or it will be mentioned in the course.
オフィスアワー等(連絡先含む)	Feel free to contact at any time (marikoi@heritage.tsukuba.ac.jp). Feel free to contact at any time (marikoi@heritage.tsukuba.ac.jp).
その他(受講生にのぞ	Notice:

<p>むことや受講上の注意 点等)</p>	<p>*This course will take place online in the Winter semester of 2020. I will post the upcoming news here.</p> <p>*This course will focus more on the civil participation and practices in urban sphere, which means this course offers you a slight change of contents comparing to the last years.</p> <p>If you have any questions regarding the contents, please feel free for asking any questions or requests to marikoi@heritage.tsukuba.ac.jp.</p> <p>問題意識を持ち,積極的な姿勢で参加してください。日本人の学生もウェルカムです。日本語による解説も適宜行います。</p> <p>Students should actively participate in this lecture, especially by exploring civil practices in their interested countries.</p>
<p>他の授業科目との関連</p>	
<p>ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)</p>	<p>TA will be deployed as an assistant.</p>
<p>キーワード</p>	<p>cultural heritage, civil participation, historic cities/towns, Europe, Sustainability, EU</p>

授業科目名	World Heritage and Sustainability(世界遺産と持続可能性)
科目番号	OATV205
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋ABC集中
担当教員	飯田 義彦
授業概要	持続可能性概念について様々な保全制度と地域実践事例から学ぶ。自然と文化の遺産管理において、持続可能性概念や国連の持続可能な開発目標(SDGs)をいかに結びつけて社会実装を進めるか。その上で、持続可能な社会づくりに向けたグローバルとローカルの協働のあり方と将来方策についての自身の考えを深める。
備考	英語で授業。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、マネージメント能力、コミュニケーション能力、国際性、共通知の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、国際実践力
授業の到達目標（学修成果）	遺産地域や自然保全地域における持続可能な地域づくりに関して自ら考察し、将来的な国際対話のための素養を身につけるようにする。 The students will be expected to acquire framework and skills for international dialogue and to consider sustainable local planning in the region of heritage sites and natural conservation areas.
授業計画	第1回 国際社会と持続可能性概念 第2回 環境・経済・社会と将来世代 第3回 持続可能な開発目標(SDGs) 第4回 地球環境問題と気候変動 第5回 自然環境の保全と賢い利用 第6回 自然の恵みの評価(生態系サービス) 第7回 自然と文化の地域政策(生物文化多様性) 第8回 地域環境計画と地域づくり 第9回 国際対話と国連機関の役割 第10回 総合討論 1. International society and the concept of sustainability 2. Environment, Economic, Society and future generations 3. Sustainable Development Goals (SDGs) 4. Global environmental issues and climate change 5. Natural environmental conservation and wise use 6. Assessment of natural prosperity (Ecosystem services) 7. Local policy on nature and culture (Biocultural diversity) 8. Local environmental planning and local development 9. International dialogue and the role of United Nations 10. Discussions
成績評価方法	授業中の小レポートまたはグループワークの参加態度 (40%) と講義終了後のレポート (60%) により評価する。 The students will be assessed by participation attitude of groupwork (40%) and final report (60%) after the course.
学修時間の割り当て	

び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	Web materials such as United Nations and international organizations.
オフィスアワー等（連絡先含む）	Mail to: iida.yoshihiko@heritage.tsukuba.ac.jp (Yoshihiko IIDA)
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>国際的な視点と地域社会の視点の双方から持続可能性概念を理解するため、関連する社会動向や新聞記事などに目を通しておく。</p> <p>The students will be required to read some article of newspaper and web materials to consider of the concept of sustainability from both local and global perspectives before attending the course.</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	<p>持続可能な開発目標，国連，気候変動，生物文化多様性，生態系サービス，世界遺産，ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)，世界農業遺産，ジオパーク，ラムサール条約登録湿地，国際SATOYAMAイニシアティブ，里山里海，公共性</p> <p>Sustainable Development Goals (SDGs), United Nations, Biocultural diversity, Ecosystem services, World heritages, UNESCO Biosphere Reserves, Geoparks, Ramsar Wetlands, International SATOYAMA Initiative, Satoyama and Satoumi, Publicness</p>

授業科目名	Role of International Organizations and NGOs(国際機関の役割)
科目番号	OATV206
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋C水5,6
担当教員	池田 真利子, 吉田 正人, 飯田 義彦
授業概要	Students of Master and Doctoral degree programs will learn, how heritage and identity-related in the modern “global world”, by knowing the recent national, regional, and local context, not only in Western European countries (such as Germany or Italy) but also in Eastern European countries (such as in former Eastern Germany) as well as in the global South (such as India). In the field of heritage preservation, practices rooted in civic engagement had much dedicated due to specific regional and political contexts, especially since the 1980s. Although, pragmatic academic discourses tend to ignore the national or regional context and conflicts emerged along with "Heritization(遺産化, isan-ka)" or "Institutionalisation(組織化, soshiki-ka)". This lecture will be assisted by Prof. Dr. Leo Schmidt, who has over thirty years developed the discipline of heritage studies base on practical, theoretical as well as academic views, to extend the further academic discussions online.
備考	英語で授業。 オンライン(同時双方向型) 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	<ul style="list-style-type: none"> ○知の活用力:学際的な教養・専門的知識を習得できる ○コミュニケーション能力:グローバルな事象に関して英語で理解し,英語で意見を述べる機会に触れることができる ○国際性:オンラインでBTU(ドイツ・ブランデンブルク工科大学)の教員と繋ぐことで,筑波大学内において日本人教員のサポートを得ながら,自らの国際性を発展することができる ○共通知の活用力:Heritage studiesにおける学際的な共通知を習得することができる ○専門知の活用力:Heritage studiesにおける専門知(建築学・国際行政学・ヘリテージ学・文化人類学等) ○共通技能の活用力:知識として得た共通技能を基に,簡単なサーヴェイとディスカッションへと発展することができる ○専門技能の活用力:知識として得た専門技能を,簡単なサーヴェイとディスカッションへと発展することができる ○国際実践力:自らの学術的関心をグローバルなHeritage studiesにおいて位置付け,相対的に理解することができる
授業の到達目標(学修成果)	Students of Master and Doctoral degree programs will learn, how heritage and identity-related in the modern “global world”, by knowing the recent national, regional, and local context, not only in Western European countries (such as Germany or Italy) but also in Eastern European countries (such as in former Eastern Germany) as well as in the global South (such as India). In the field of heritage preservation, practices rooted in civic engagement had much dedicated due to specific regional and political contexts, especially since the 1980s. Although, pragmatic academic discourses tend to ignore the national or

授業の到達目標 (学修成果)	regional context and conflicts emerged along with "Heritazation(遺産化, isan-ka)" or "Institutionalisation(組織化, soshiki-ka)". This lecture will be assisted by Prof. Dr. Leo Schmidt, who has over thirty years developed the discipline of heritage studies base on practical, theoretical as well as academic views, to extend the further academic discussions online.
授業計画	<p>6th January (Wed) 15:45~17:45 (2 Hour) 15:45~17:00 (Video lecture), 17:00~17:45 (On-time discussion on MS Teams) Heritage and Identity: 200 Years of Heritage Conservation in Germany</p> <p>13th January (Wed) 15:45~17:45 (2 Hour) 15:45~17:00 (Video lecture), 17:00~17:45 (On-time discussion on MS Teams) Conservation of Earthen Architecture in Ladakh (India)</p> <p>20th January (Wed) 15:45~17:45 (2 Hour) 15:45~17:00 (Video lecture), 17:00~17:45 (On-time discussion on MS Teams) Heritage management in the Italian context with case studies in Italy</p> <p>27th January (Wed) 15:45~17:45 (2 Hour) 15:45~17:00 (Video lecture), 17:00~17:45 (On-time discussion on MS Teams) Protecting Cultural Heritage in Emergencies: Blue Shield International and in Germany</p> <p>3rd February (Wed) 15:45~17:45 (2 Hour) 15:45~17:00 (Video lecture), 17:00~17:45 (On-time discussion on MS Teams) The Berlin Wall Today: Significance and Management</p>
成績評価方法	Students will be required to present their own academic perspectives or questions to lectures.
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	Students will be required to prepare one to two hours at home.
教材・参考文献・配付資料等	Learning materials will be provided.
オフィスアワー等 (連絡先含む)	Directly email to marikoi@heritage.tsukuba.ac.jp (corresponding professor, IKEDA) 池田 真利子
その他 (受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	If you have any questions, please feel free to contact marikoi@heritage.tsukuba.ac.jp at any time.
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチングアシスタント (TA)	TA will be deployed.
キーワード	Heritage in the "global world"?, National and Regional context with in heritage preservation and

授業科目名	建築遺産論
科目番号	OATV301
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB木2
担当教員	下田 一太
授業概要	多様な歴史的背景や環境条件、意匠の特徴や利用可能な材料の特性に根差した建築遺産の理解、分析、調査、記述の方法と視覚化、評価の方法を学び、そうした歴史的建造物の意義や価値を保存・継承するための修理や復元の理念と技術、それらを伝達するための整備や再生の幅広い手法や技術について、国内外の世界文化遺産を含む建築遺産を事例として理解する。授業を通じて、各自が関心を有する建築遺産に対して、必要とされる調査を実践的に適用するための知識を習得し、保存や活用のための具体的な提案ができるようになることを到達目標とする。
備考	新型コロナウイルスの感染状況に応じて、対面かオンライン（オンデマンド型）かを選択する。 01EC516と同一。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	本講義は「知の活用力」「コミュニケーション能力」「国際性」「共通知の活用力」「専門知の活用力」「共通技能の活用力」「専門技能の活用力」の向上に関連する。
授業の到達目標（学修成果）	歴史的・伝統的な建築や近現代の建築を含む建築遺産を保存し、今日の社会において活用するための方法や考え方について学ぶ。 建築遺産の保存修復のためには、横断的な研究分野（建築学・考古学・地盤工学・保存科学・材料学・年代測定学・修復設計学等）の連携を要することになる。必要とされる調査・研究方法を、多様な事例を通じて学ぶ。建築遺産のおかれた立地条件や歴史背景、意匠、構造・材料上の特質に基づき、対象とすべき建築遺産の保存や活用のために求められる専門分野や調査研究の手法を判定・適用する能力が獲得される。
授業計画	コロナ禍への対応として、オンライン（オンデマンド形式）と対面講義を併用する予定であるが、今後の感染拡大状況に基づいて判断する。 第1回 ガイダンス・建築遺産のオーセンティシティー（その1） 第2回 建築遺産のオーセンティシティー（その2） 第3回 日本建築史の概説 第4回 日本の民家とその修理工事 第5回 歴史的建造物の実測と記録 第6回 建築遺産の修理工事 第7回 近現代建築の保存と活用 第8回 歴史文化基本構想における建築遺産 第9回 伝統的建造物群保存地区における保存・修理・新築 第10回 アンコール遺跡群における建築・都市の研究 * 建築遺産演習の日程に基づき、上記の授業計画は適宜調整する予定である。
成績評価方法	授業中の積極性20%、各講義の小レポート80% の割合で評価する。 全講義がオンライン（オンデマンド形式）となった場合には、各講義の小レポート100%で評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業後に毎回課題を提示するので、次回講義までに小レポートとして提出すること。

教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡をしてから訪問すること。 shimoda at heritage.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	各自が関心をもつ建築遺産を念頭におき、講義内容を応用的に活用することを常に考えつつ講義に参加すること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	文化遺産，保存と活用，建築史，考古学，地盤工学，伝統的建造物群保存地区，民家，石造建築，煉瓦造建築，近代建築，復元，改修

授業科目名	美術遺産論I
科目番号	OATV303
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB火3
担当教員	八木 春生
授業概要	講義形式(学内)。中国で世界遺産に認定された雲岡石窟や龍門石窟、また敦煌莫高窟などを対象とする。この授業では、中でも北魏時代(439年から534年)に開かれた石窟を取り上げる。窟形式や造像の様式、形式、また文様などの要素を様々な角度から分析し、それを総合的に考察することで評価を行う。それぞれの石窟がいかなる目的のために、またいかなる人々のために開かれたか、そのためにいかなる工夫がなされたかを明らかにする。そしてこの作業から抽出される、それぞれの石窟の特殊性に基づき、それに適した石窟の保存を考える能力を養成する。これにより、中国北魏時代の代表的な石窟に関する基礎的な知識を有し、その評価を基盤として活用など保護の方法を自らの研究と関連してできるようになる。
備考	01EC520と同一。 オンライン(オンデマンド型) 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、コミュニケーション能力、国際性、共通知の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力
授業の到達目標(学修成果)	学生は、世界遺産である雲岡石窟と龍門石窟に関する基礎的な知識を有し、それらを評価する方法論を取得できるようになる。またその評価を基盤として、個々の学生が、活用など保護の方法を自らの研究と関連して考察できるようになる。
授業計画	雲岡石窟および龍門石窟について概観し、その価値がどこにあるかを理解し、それらにいかなる評価を与えることが可能かを考察できるようにする。講義形式で授業を進めるが、必要に応じて履修者とのディスカッションをおこなう。 第1回雲岡石窟の概説 第2回雲岡石窟第一期(曇曜五窟)について 第3回雲岡石窟第二期諸窟(編年)について-第九・十窟を中心に 第4回雲岡石窟第二期諸窟(造営思想)について-明窓左右壁の山岳文様に注目して 第5回雲岡石窟第二期諸窟(工人系統)について-第五・六窟を中心に 第6回雲岡石窟の評価 第7回龍門石窟古陽洞の造営過程について 第8回龍門石窟賓陽洞について(仏教美術の漢民族化の完成) 第9回龍門石窟以外の北魏時代後期の仏教造像について-道教との融合 第10回龍門石窟の評価 雲岡石窟では、中国で最初の国家的造営の石窟であるとともに、皇家のために造営された石窟である点を評価し、龍門石窟では、漢民族化が進み、仏教美術の中国化の完成が認められる点を評価する。また、龍門石窟以外の地域では、道教との融合が見られることも注目し、これも仏教美術の中国化の一環であることを評価する。
成績評価方法	授業中の積極性(30%)とレポート(70%)の割合で評価する。レポートは、授業の内容を理解し、授業目標に到達していることを評価基準とする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業の内容理解度を深めるため、授業終了後に次の授業までに読むべき文献を指示する。
教材・参考文献・配付資料等	雲岡石窟及び龍門石窟に関する文献の中から、重要なものを選び、それを授業終了時に指示するので、次の授業までに読んで内容をある程度理解しておくこと。 1. 八木春生『雲岡石窟文様論』法蔵館、2000年、八木春生『中国仏教美術の漢民族化』

教材・参考文献・配付資料等	法蔵館、2004 年 授業終了後に、授業の内容で分からなかったことと、講読してきた論文の内容の不明な点について説明する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	火曜日 11 時－ 12 時 haygi@heritage.tsukuba.ac.jp オフィスアワー以外の時間で面接を希望する学生は、授業終了後に相談をして、日時を決める。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	中国仏教美術史に関して、興味を持つことと、積極的に作品を見ること。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	雲岡石窟，龍門石窟

授業科目名	美術遺産論II
科目番号	OATV304
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋AB火3
担当教員	八木 春生
授業概要	講義形式(学内)。中国で世界遺産に認定された敦煌莫高窟、龍門石窟などの、唐時代前期(618年から655年)に開かれた石窟を取り上げる。窟形式や造像の様式、形式、また文様などの要素を様々な角度から分析し、それを総合的に考察することで、これらの石窟の評価を行う。敦煌莫高窟唐前期諸窟や、龍門石窟唐前期諸窟のほとんどは、北魏時代に国家により開かれた雲岡石窟と異なり、民間による造営である。浄土教が流行したこの時期に、人々がいかなる目的を持って造営し、またそれらの人々の要求を満足させるためにどのような工夫がなされたかを考察する。そしてこの作業から抽出される、それぞれの石窟の特殊性に基づき、それに適した石窟の保存を考える能力を養成する。これにより、唐時代前期の代表的な石窟に関する基礎的な知識を有し、その評価を基盤として活用など保護の方法を自らの研究と関連してできるようになる。
備考	01EC521と同一。 オンライン(オンデマンド型) 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、コミュニケーション能力、国際性、共通知の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力
授業の到達目標(学修成果)	学生は、中国南北朝時代後期および隋、唐時代前期(557-756)の仏教美術に関する基礎的な知識を有し、それら进行评估する方法論を取得できるようになる。またその評価を基盤として、個々の学生が、活用など保護の方法を自らの研究と関連して考察できるようになる。
授業計画	作品が多数残されている敦煌莫高窟の南北朝時代後期および隋、唐時代の仏教美術を中心に取り上げ、造像や壁画などの様式、形式の流れを概観し、その価値がどこにあるかを理解する。またそれらにいかなる評価を与えることが可能かを考察できるようにする。講義形式で授業を進めるが、必要に応じて履修者とのディスカッションをおこなう。 第1回敦煌莫高窟(北周時代) 第2回敦煌莫高窟(隋時代) 壁画を中心に 第3回敦煌莫高窟(隋時代) 塑像を中心に 第4回敦煌莫高窟(隋時代) 石窟の機能ー浄土往生のための空間 第5回敦煌莫高窟(初唐時代) の大画面の西方浄土变相図についてー首都西安仏教美術との関連 第6回敦煌莫高窟(初唐時代) 塑像を中心にー首都西安仏教美術との関連 第7回敦煌莫高窟(盛唐時代) の大画面の西方浄土变相図についてー首都西安仏教美術との関連 第8回敦煌莫高窟(盛唐時代) 塑像を中心にー首都西安仏教美術との関連 第9回敦煌莫高窟以外の南北朝時代から盛唐時代の仏教美術 第10回敦煌莫高窟における仏教美術の展開と首都西安仏教美術との関連 敦煌莫高窟の南北朝時代から隋、唐時代の仏教美術を概観し、いかなる様式、形式の仏教美術が展開したかを理解する。またとくに唐時代の作品が、類例の少ない首都西安仏教美術の様相を反映している点を重視し、敦煌莫高窟の評価を行なう。
成績評価方法	授業中の積極性(30%)とレポート(70%)の割合で評価する。レポートは、授業の内容を理解し、授業目標に到達していることを評価基準とする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修	授業の内容理解度を深めるため、授業終了後に次の授業までに読むべき文献を指示する。

方法	
教材・参考文献・配付資料等	<p>敦煌莫高窟南北朝時代後期から隋、唐時代の仏教美術に関する文献の中から、重要なものを選び、それを授業終了時に指示するので、次の授業までに読んで内容をある程度理解しておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 八木春生『中国仏教美術の変容』法蔵館、2013年、 2. 八木春生『中国仏教美術の展開』法蔵館、2019年、 <p>授業終了後、授業の内容でよくわからなかった点および講読した文献の内容で不明な点を説明する。</p>
オフィスアワー等（連絡先含む）	<p>火曜日 11時－12時 haygi@heritage.tsukuba.ac.jp</p> <p>オフィスアワー以外で面接を希望する学生は、日時を授業終了後に相談し、時間を決める。</p>
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>中国仏教美術について関心を持ち、美術館等に出かけ、自らの目で作品を見ること。</p>
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	<p>敦煌莫高窟，西安隋唐仏教美術</p>

授業科目名	保存科学概論
科目番号	OATV306
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB火5
担当教員	松井 敏也
授業概要	保存科学の沿革・保存科学技術のあり方・研究方法を論じ、保存修復事例をもとに文化財を取り巻く保存環境・劣化現象の解明、その保存対策の手法について解説する。それにより、遺産や美術品の劣化や損傷に対し、その診断手法の確立、ならびに診断結果に対する総合的評価を立地環境と担当者らのスキルなどと併せて考慮する視野を構築することを旨とする。実践的処置技術については今後の社会及び環境変動を見据えた課題の抽出とその解決法を科学的に行う能力を習得する。
備考	01EC524と同一。 オンライン(オンデマンド型) 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「1. 知の活用力」、「3. コミュニケーション能力」、「5. 国際性」、「6. 共通の活用力」、 「7. 専門知の活用力」、「8. 共通技能の活用力」、「9. 専門技能の活用力」、「10. 国際実践力」に関連する
授業の到達目標(学修成果)	保存科学の沿革・保存科学技術のあり方・研究方法を論じ、文化財を取り巻く保存環境・劣化現象の把握、その保存対策の手法について学ぶ。 あらゆる材質からなる文化財の劣化を自然科学の目で捉える方法を学び、自然科学調査の成果を判断する知見を得ることで、遺産の保存のために必要な科学調査のあり方を選択できるようになる。
授業計画	第1 回4 月13 日(火・5 限) 文化財と科学 第2 回4 月20 日(火・5 限) 文化財の材質 第3 回4 月27 日(火・5 限) 保存科学とは 第4 回5 月11 日(火・5 限) 文化財の劣化要因1~長期的劣化要因~ 第5 回5 月18 日(火・5 限) 文化財の劣化要因2~中期的劣化要因~ 第6 回5 月25日(火・5 限) 文化財の劣化要因3~短期的劣化要因~ 第7 回6 月1 日(火・5 限) 歴史的建造物における活用と保存科学 第8 回6 月8 日(火・5 限) 遺跡の整備、活用と保存科学 第9 回6 月15 日(火・5 限) 動産文化財における保存科学 第10 回6 月22 日(火・5 限) まとめ~これからの保存科学とは~
成績評価方法	レポートにて講義内容の把握とその展開力を問う
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意)	

点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	

授業科目名	遺産整備計画論
科目番号	OATV401
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春A月3,4
担当教員	上北 恭史
授業概要	遺産の歴史的価値を評価し、遺産の保存手法、環境整備等について論じ、社会的保護制度や遺跡、建造物の保存手法、地域再生事業などの活用計画について考究する。教育の目標として、文化遺産を中心に、保護制度と遺産価値の理解を通して適切な保護の方法と利活用の手法について計画し、事業を遂行するための基本的考え方を学ぶ。授業の到達目標として、遺産保護制度の法令の理解および保護計画事例を把握し、遺産の持つ歴史的・社会的価値を評価する能力、需要に適した活用方法の提案ができる能力を身につける。また遺産の復元の問題や国際協力事例について事例を基に議論し、遺産を活かした地域再生について対応できる人材の育成を重視する。
備考	01E0531と同一。 オンライン(同時双方向型) 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、マネジメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性、共通地の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力、国際実践力
授業の到達目標(学修成果)	遺産保護制度や条例の理解および保護計画事例を把握し、遺産の持つ歴史的価値に適した保護手法について評価、判断ができる能力をつける。また遺産保護に基づいた社会活用について理解し、具体的な活用案を考えだしていく計画能力を重視する。
授業計画	第1回 遺産整備計画に求められる役割 第2回 遺産保存の体制(遺産整備、保存計画) 第3回 日本の木造建築と真正性 第4回 日本の世界遺産白川郷の建築的価値と保存整備 第5回 遺産地区周辺整備と古都保存法 第6回 伝統的建造物群保存制度 第7回 建築遺産の保存・活用のための整備 第8回 遺産理解の促進と整備 第9回 遺産保存における国際協力の仕組みと評価 第10回 遺産整備計画における研究とその視点
成績評価方法	レポートによる評価
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	実際の遺産保存・活用事例は遺産整備計画演習で確認する。本講義によって得られた知識と関連させて演習に臨むことが望ましい
教材・参考文献・配付資料等	各授業ごとに適切な資料をPDFで事前に配布する。授業に資料を各自持参すること。 1. 河村恒明他,文化財政策概論
オフィスアワー等(連絡先含む)	研究室:共同研究A棟204-1 オフィスアワー 木曜日10:00-12:00
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	遺産保護には文化財保護法の他、都市計画や景観保護制度も関連している。また日本史や建築史の基礎力は遺産の理解に必須である。これらの基礎学力を身につけてから授業に参加すること。
他の授業科目との関連	

ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	文化財保護法, 伝統的建造物群保存地区, 木造建造物の保存, 古都保存法, 遺産の理解 と解説

授業科目名	インタープリテーション概論
科目番号	OATV406
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋A集中
担当教員	武 正憲
授業概要	<p>インタープリテーションおよびエコツーリズムの歴史・期待される効果・実施上の注意点や課題について理論的な概要を学習する。自然遺産および文化遺産の価値を利用者にどのように伝えるのか、その技術や伝えるべき対象の価値の捉え方について、実際の事例を体験することを通して考察する。教育目標は自然遺産・文化遺産の価値をとらえ、それを伝える技術を理解し、遺産の利活用と保全におけるインタープリター(エコツアーガイド)の果たす役割を理解することである。</p> <p>授業目標の到達目標は、インタープリテーション・プログラムを提案できるような能力を身につけることであり、その習得度はプレゼンテーションやレポート課題によって確認する。</p>
備考	講義：オンライン（オンデマンド型と同時双方向型の併用）現地視察：対面 01EC559と同一。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	<p>知の活用力:高度な知識を社会に役立てる能力、コミュニケーション能力:専門知識を的確に分かりやすく伝える能力、チームワーク力、チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力、国際性:国際社会に貢献する意識、共通知の活用力:文化・自然遺産保護に共通する知識を社会に役立てる能力、専門知の活用力:文化・自然遺産に関する高度な知識を社会に役立てる能力、共通技能の活用力:文化・自然遺産保護に共通する課題の解決に応ずる能力、専門技能の活用力:文化・自然遺産保護の専門的課題の解決に対応する能力、国際実践力:国際的視野を持って、文化・自然遺産の保護に取り組む意識。</p>
授業の到達目標（学修成果）	<p>自然遺産・文化遺産の価値を捉え、それを伝える技術を理解する。</p> <p>遺産の活用におけるインタープリターの果たす役割を理解する。</p> <p>インタプリテーションおよびエコツーリズムの概念について理解し、効果的なガイドプログラムについて説明や提案ができるようになる。</p>
授業計画	<p>集中講義で行い、大きく前半と後半に講義内容を大きく分ける。</p> <p>前半は主に講義で、インタープリテーションおよびエコツーリズムに関する歴史や思想、技術を考える。遺産活用においてインタープリテーションを担うインタープリターがどのような役割を果たすのか、事例を交えながら考察する。</p> <p>後半は現地演習により、具体的にツアープログラムを体験し、インタープリテーションについて理解を深める。</p> <p>第1回:遺産の活用におけるインタープリテーション 第2回:遺産活用におけるインタープリターの果たす役割 第3回:現地演習</p>
成績評価方法	参加意欲(50), レポート課題(50)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>10月6日(水) 3-5時限:オンライン講義(オンデマンド型(MS stream)&同時双方向型(Zoom))</p> <p>10月23・24日(金土):現地演習@埼玉県飯能市(対面式)</p>
教材・参考文献・配付資料等	<p>必要な資料は講義内で配布するが、下記の参考資料を理解して授業に臨むことが望ましい。</p> <p>1. 自然保護学入門 -ひとと自然をつなぐ-, 筑波大学出版会, 256頁</p>
オフィスアワー等（連	

絡先含む)	
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	10月6日(水)はオンライン講義(オンデマンド型&同時双方向型),10月23・24日(金土)は現地演習(対面型)となります。 各自の興味に応じて,実際のガイドプログラムへの参加し,参加者の視点を体験しておくことを期待します。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	インタープリテーション, 価値, 役割, エコツーリズム

授業科目名	世界遺産特別研究
科目番号	OATV003
単位数	6.0 単位
標準履修年次	2 年次
時間割	通年随時
担当教員	黒田 乃生, 飯田 義彦, 池田 真利子, 伊藤 弘, 上北 恭史, 下田 一太, 武 正憲, 松井 敏也, 八木 春生, 吉田 正人
授業概要	指導教員から修士論文の研究方法について指導を受け、セミナーでの発表、修士論文中間発表を経て、修士論文作成を行い、最終試験において審査を受ける。
備考	オンライン(同時双方向型) 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、マネージメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性、共通知の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力、国際実践力
授業の到達目標(学修成果)	修士(世界遺産学)にふさわしい研究を完成させる。論文作成を遂行し、研究者としての基礎的能力をつける。
授業計画	指導教員から研究方法について指導を受け、セミナーでの発表、修論中間発表、修論作成を行い、最終試験において審査を受ける。修了に向けて主なスケジュールは以下の通りである。 11 月 中間発表、12 月 修士論文題目確定届、1 月 学位論文提出(学位論文審査願、学位論文(正 1 部、副 2 部)、論文概要(2 通)、論文目録(2 通)、履歴書(2 通)) 論文審査専門委員会(論文審査)、2 月 学内修士論文発表会、修論梗概集原稿提出。
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	指導教員の指導を随時受けながら研究を進めること
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	修士論文

授業科目名	文化遺産論
科目番号	OATV101
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春AB木3
担当教員	下田 一太
授業概要	文化遺産の保護について、遺産の概念、保護の理念、日本及び諸外国の保護制度の概要、さらにそれらの現在に至る歴史的経緯の理解を通して、現代社会における役割、その現状と今後について考察する。履修する大学院生は、文化遺産保護の理念と制度を理解するだけでなく、現代社会における文化財保護についてのディスカッションに参加し、意見を述べるができるようになることが求められる。
備考	新型コロナウイルスの感染状況に応じて、対面かオンライン(オンデマンド型)かを選択する 01EC536と同一。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	本講義は「知の活用力」「コミュニケーション能力」「共通知の活用力」「専門知の活用力」「共通技能の活用力」「専門技能の活用力」の向上に関連する。
授業の到達目標(学修成果)	文化遺産保護の理念と制度について基本となる事項を理解する。現代社会における文化遺産保護についての一般的なディスカッションに参加し、意見を述べるができるようになる。
授業計画	第1回 文化遺産とは・日本における文化財保護の近代史 第2回 日本における戦後の保護制度の展開 ~ 開発圧力と文化財保護 ~ 第3回 古都奈良・平城宮跡にみる文化遺産の開発と保護の展開 第4回 文化遺産の対象の拡充 ~ 主として歴史的建造物の指定対象より ~ 第5回 遺産の保存と活用のために ~ 登録文化財制度・建造物の復元 ~ 第6回 遺産の総合的な保存と活用のために(その1) ~ 歴史文化基本構想を中心に ~ 第7回 遺産の総合的な保存と活用のために(その2) ~ 歴史まちづくり法・日本遺産・地域計画 ~ 第8回 世界遺産に関連する国際機関から 第9回 世界遺産条約の成立と仕組み 第10回 世界遺産一覧表への推薦 ~ 日本における世界遺産に関連する諸課題とともに ~
成績評価方法	授業中の積極性20%、講義後の小レポート80% の割合で評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	各講義後に課題を提出するので、次回講義までにその課題を通じて考察を深め、レポートを提出すること。
教材・参考文献・配付資料等	以下の参考文献は本講義の補助として利用されたい。 1. わかりやすい文化財保護制度の解説, ぎょうせい, 2007
オフィスアワー等(連絡先含む)	オフィスアワーは特に定めないが、事前連絡をしてから訪問すること。 shimoda at heritage.tsukuba.ac.jp
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー	

(TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	文化遺産，世界遺産，文化資源，国際文化協力，保護と活用，真実性，完全性，日本遺産，産業遺産，文化政策，地域政策，持続可能な開発

授業科目名	自然遺産論
科目番号	OATV103
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春A木1,2
担当教員	吉田 正人
授業概要	自然遺産保全の基礎となる自然保護、生物多様性保全を学ぶとともに、自然遺産と関連する保護地域制度と自然遺産との関連性についても考究する。とりわけ、世界自然遺産の登録基準、世界自然遺産のセイフティーネットとしての危機遺産リスト、外来種や気候変動のモニタリング、保護地域のネットワークと国境を超えた世界遺産などの事例を考察する。
備考	01AH410, 01EC565と同一。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標（学修成果）	世界遺産条約における自然遺産の位置づけ、世界遺産リストの登録基準の理解 世界自然遺産のゾーニングと生物圏保存地域、自然公園等のゾーニングとの違い 世界遺産の保全状況のモニタリングと危機遺産リストの有効性 世界遺産を核とした保護地域ネットワーク、国境を超えた世界遺産と国際協力
授業計画	木曜日1-2限を使った授業を行うとともに、履修生は世界自然遺産に関する事例研究を行い、最終回のプレゼンテーションまたはレポート提出をもって成績をつける (1)世界遺産条約の歴史と自然遺産の位置づけ、世界遺産リストの登録基準 (2)屋久島、白神山地、知床におけるバッファーズーンの拡大、科学委員会・地域連絡会の変遷 (3)小笠原諸島、奄美・琉球諸島における外来種対策、世界遺産管理地域の設定 (4)国境を超えた世界遺産、世界遺産を核とした保護地域ネットワーク (5)保全状況のモニタリングと危機遺産リスト、世界遺産基金と国際協力
成績評価方法	授業とは別に、世界自然遺産地域の事例研究を行い、最終日にプレゼンテーション、またはレポートで提出し、それをもって成績をつける
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業時間とは別に、個別に世界自然遺産地域の事例研究を行うこと。
教材・参考文献・配付資料等	1. 吉田正人, 世界自然遺産と生物多様性保全. 地人書館 2. 吉田正人, 世界遺産を問い直す. 山と溪谷社
オフィスアワー等（連絡先含む）	木曜日 1300-1700 人文社会学系棟B212 yoshida_masahito at heritage.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	OATV104自然遺産演習を希望する学生は、本授業または0A0A002自然保護論を履修することを条件とする
キーワード	世界遺産条約, 自然遺産, 登録基準, 管理計画, バッファーズーン, モニタリング, 危機遺産リスト, 世界遺産基金, 保護地域ネットワーク, 国境を超えた世界遺産

授業科目名	無形遺産論
科目番号	OATV106
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋BC集中
担当教員	池田 真利子
授業概要	無形遺産の概念、保護の体制、遺産保護の事例を通して、無形遺産への理解を深め、無形遺産が持つ文化的価値について考究する。文化財保護法における無形遺産と、ユネスコ無形文化遺産条約における無形文化遺産の違い、無形文化遺産を保護するための国際的・国内的政策と地域の取り組みについても学ぶ。
備考	非常勤講師(宮田繁幸氏) 01EC507と同一。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力・コミュニケーション能力・共通知の活用力・専門知の活用力・共通技能の活用力・専門技能の活用力
授業の到達目標(学修成果)	無形遺産の概念、保護の体制、遺産保護の事例を通して、無形遺産への理解を深め、無形遺産が持つ文化的価値について考究する。文化財保護法における無形遺産と、ユネスコ無形文化遺産条約における無形文化遺産の違い、無形文化遺産を保護するための国際的・国内的政策と地域の取り組みについても学ぶ。
授業計画	1日目(11/28) 序論・文化財保護制度の変遷と無形文化遺産 <文化財保護法以前・文化財保護法以後> 2日目(12/19) 無形文化遺産保護の実務<指定等実務・保護の実務>・日本の無形文化遺産実例紹介(映像等) 3日目(1/23) 無形文化遺産保護条約と日本<条約の成立とその後の変遷・日本の対応・現状と課題>・世界の無形文化遺産実例紹介
成績評価方法	出席およびレポート課題
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	特になし
教材・参考文献・配付資料等	宮田繁幸氏の過去の著作物に目を通し、各自で無形遺産とは何かを事前に考えておくといいでしょう。
オフィスアワー等(連絡先含む)	随時
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	令和2年度の講義日(於,人文社会学系棟B218) 11月28日(土)(2~4時限),12月19日(土)3コマ(2~4時限),1月23日(土)4コマ(2~5時限)。 講師:元文化庁文化財部伝統文化課 文化財保護調整官 宮田繁幸氏
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	TAによる学習の補助、指導 瞿芳馨(s2030501@u.tsukuba.ac.jp)
キーワード	無形遺産, 文化庁, 実務家, 日本

授業科目名	遺産保護行政論
科目番号	OATV107
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋B集中
担当教員	下田 一太
授業概要	日本の遺産保護に関わる政策、行政システムについて理解し、日本の遺産保護制度の体系や保護の方法について理解する。文化庁の遺産保護担当者から、直接、遺産保護に関わる法制度、行政のシステムに加えて、具体的な遺産保護の事例についてその経験を伺い、日本の遺産保護行政の成果と課題について学ぶ。
備考	非常勤講師 01EC544と同一。 対面
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、コミュニケーション能力、共通知の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力
授業の到達目標（学修成果）	日本の遺産保護に関わる政策、行政システムについて、また日本の遺産保護制度の体系や保護の方法について、理解できるようになる。
授業計画	文部科学省文化庁において、文化財調査官を中心とする行政の専門家複数からの講義を受ける。 日本の文化財行政の中核を担う専門家からの、幅広い観点からの講義であり、国内外の遺産保護と活用の最前線の実態と課題について学ぶ。 2日間の集中講義を予定している。
成績評価方法	全講義後のレポートにより評価する。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	昨年度は12月に実施をしており、基本的には11月もしくは12月に実施する予定。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	TAによる学習補助、指導
キーワード	

授業科目名	Global Project: Designing Heritage Research(グローバルに考究するヘリテージ研究)
科目番号	OATV111
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春C夏季休業中集中
担当教員	池田 真利子, 上北 恭史, 松井 敏也
授業概要	<p>本科目のねらいは、「Creativity and Art (創造性とアート)」で学んだ研究視点や各年設定のテーマに関連し、その研究方法やデータ取得方法を大学/現地フィールドで具体的かつ実践的に学ぶことである。学生は地域調査の基礎を学ぶだけでなく、自ら主体的にフィールド調査に取り組む経験を得ることができる。また、「Global Creativity and Art (創造性とアート)」と連携させることにより、国際的な学術議論を無理なく考えに取り組むことができる。</p> <p>なお2021年度は初年度のため、ヘリテージ学の「活用」に焦点を当て、地理学(地域空間変容・都市文化・地域フィールド調査)・建築デザイン学(材料・構造・デザイン史・フィールド科学)・保存科学(行政協働・問題解決型科学・科学的調査手法)を中核とし、フレキシブルなチーム(研究・情報メディア記録・提案)に分かれ、地域貢献における発展性を意識した学術的成果へと繋げる。</p> <p>本科目では、専用のタブレット端末・録画機器を最大限活用したグループ学習を行います。</p>
備考	<p>一定の基準を設け、履修生数を限定する場合がある。【教学マネジメント室支援科目】オンライン(同時双方向型)および対面の併用:「プロジェクトルーム(共同研究棟 A212)」および筑波大学学内未活用施設でのオンライン併用型演習・作業(オンラインの場合には、Microsoft TEAMS/STREAMを使用)。および学外演習(東京都・茨城県や市区行政、東京都荒川区・台東区および茨城県つくば市近郊の未活用遺産サイト等)英語で授業。</p>
授業方法	講義、演習及び実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	<p>【汎用コンピテンス】 知の創成力, マネージメント能力, コミュニケーション能力, リーダーシップ力, 国際性</p> <p>【専門コンピテンス】 共通知の展開力, 専門知の創造力, 共通技能の展開力, 専門技能の開発力, 国際的開発力</p>
授業の到達目標(学修成果)	<p>全25時間(うち、学内講義・演習10時間・学外演習15時間を予定)により、文理横断的視点と学際的科学知を実践的に習得できる。また、「知りたいこと」の手段として英語・外国語を使用することで、自然な国際的感覚が身につく。これにより、「グローバル・ヘリテージスタディーズ(世界遺産学)」のフレキシブルな体系化の可能性を探る。</p> <p>In total, 25 hours (including (1) 10 hours of on-campus lectures and exercises, and (2) 15 hours of off-campus exercises) will enable students to acquire practical knowledge of interdisciplinary scientific knowledge from a cross-disciplinary perspective. In addition, the use of English and foreign languages as a means of "knowing what you want to know" will enable students to acquire a natural international outlook. In this way, the possibility of a flexible systematization of "Global Heritage Studies" will be explored.</p>
授業計画	<p>予定</p> <p>第1回(7/2金)</p>

<p>授業計画</p>	<p>屋外対面（総合交流会館オープンスペース／松見池） 初回ガイダンスとチーム作成：「誰」が「何」を「どう」すすめるの？ テーマの提案&学生の研究関心の共有 論文紹介：文献の読み方と問いの立て方（池田・上北・松井） 第2回（7/9） 体を動かして頭を使おう！ Studio Grossや東京都内での調査（2～3グループ） 第3回（7/16金） 「プロジェクトルーム」共同研究棟A212あるいは学術情報メディアセンター フィールドワーク基礎：地図と基礎情報の収集（池田） フィールドワーク基礎：インタビューとアンケート調査（池田） フィールドワーク基礎：図表作成の基礎（池田） 第4回（7/23金） 「プロジェクトルーム」共同研究棟A212あるいは学術情報メディアセンター ドキュメンタリー基礎：動画作成のノウハウ（上北先生） ドキュメンタリー基礎：動画編集のノウハウ（上北先生） ドキュメンタリー基礎：動画公開のノウハウ（上北先生） 第5回（7/30金） エクスペリメント基礎：バックステージを巡る（松井先生） エクスペリメント基礎：バックステージで視る（松井先生） エクスペリメント基礎：バックステージで測る（松井先生） 第6回（8/6） 体を動かして頭を使おう！ 茨城県民有地の調査（2～3グループ）・提案</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>授業内外で実施のディスカッションにおける発言や、論文・動画制作を含むグループごとの共同作業に基づき、総合的に評価する。 Students will be evaluated comprehensively on the basis of what they say in discussions held in and out of class, and on the collaborative work of each group, including the production of papers and videos.</p>
<p>学修時間の割り当て及び授業外における学修方法</p>	<p>地理学・建築学・保存科学で使用される概念説明や基礎的な人文・科学知識に関して、分からない場合には各自で文献（論文・書籍）に当たり、理解に努めて下さい。なお、OATV111「Global Project: Designing Heritage Research(グローバルに考究するヘリテージ研究デザイン)」では、その他、『都市／建築フィールドワーク・メソッド』（INAX出版）、『東京裏返し』（集英社新書）、『江戸東京の都市組織に挑む』（彰国社）、『近代建築遺産の継承』（鹿島出版会）、『無形学へ かたちになる前の思考』（水曜社）等を参考書とします。 If you are unsure about a conceptual explanation or basic humanities or scientific knowledge used in geography, architecture or conservation science, please consult the literature to help you understand it.</p>
<p>教材・参考文献・配付資料等</p>	<p>各回で指示・配布します。/ Instructions and handouts will be given at each session.</p>
<p>オフィスアワー等（連絡先含む）</p>	<p>連絡教員宛て（marikoi@heritage.tsukuba.ac.jp）に連絡して下さい。/ Contact to marikoi@heritage.tsukuba.ac.jp 池田 真利子</p>

その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	[2021年度] 本演習は一部，英語で実施する可能性があります。 / Some lectures will be given in English.
他の授業科目との関連	OATV111 Global Project: Designing Heritage Research(グローバルに考究するヘリテージ研究デザイン)
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	TA3名/ TA will be deployed.
キーワード	活用，地域資源，再評価，産業遺産，私有地，リユース&リサイクル，文理横断，学際的科学的知，情報リテラシー，製図，制作，空間科学知

授業科目名	UNESCO and the World Heritage Convention(ユネスコと世界遺産)
科目番号	OATV202
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春ABC集中
担当教員	吉田 正人, 飯田 義彦, 池田 真利子
授業概要	As the most influential instrument in the international heritage field, the UNESCO World Heritage Convention has been providing an important instructive framework to the member countries, from actual protection and conservation of individual heritage sites to the development of national heritage policies and administrations of countries. Encompassing history, philosophy and operational schemes, the lecture provides an overall picture of the international discussions developed in and around the World Heritage Convention.
備考	本年度開講せず 01EC546と同一。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、コミュニケーション能力、国際性、共通知の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力、国際実践力
授業の到達目標（学修成果）	国際機関ユネスコの活動及び世界遺産条約の仕組みについて基本となる事項を理解し、ユネスコ及び世界遺産条約の国際社会における意義や役割についての一般的なディスカッションに参加し、意見を述べるようになる。
授業計画	世界遺産条約について、条約の成立に至る歴史的背景を含む制度の詳細、運用の実態の分析を通して、またそれをユネスコが行う文化と自然に関わる総体的な活動の中に位置付けて理解することで、現代社会における世界遺産条約の役割、特に文化遺産・自然遺産保護の国際的な枠組みにおける条約の位置づけ、その現状と今後について考察する。 授業は以下のトピックに沿って進める。 第1回世界遺産条約の概要、第2回ユネスコの概要、第3回世界遺産条約の歴史、第4回世界遺産条約の運営の実態、第5回世界遺産の申請・審査・登録の仕組み、第6回世界遺産の保全状態の審査の仕組み、第7回 ユネスコの文化と自然に関わるその他の条約とプログラム、第8回世界遺産と地域社会、第9回世界遺産と国際協力 世界遺産条約の今後、第10回 世界遺産条約の今後
成績評価方法	出席及びレポート提出。ディスカッションへの積極的な参加を考慮に加える。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	吉田 正人 yoshida_masahito at heritage.tsukuba.ac.jp
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	

キーワード

世界遺産, 文化遺産, 自然遺産, ユネスコ, 国際連合, 国際協力, 持続可能な開発

授業科目名	International Conventions for Heritage Conservation(国際条約論)
科目番号	OATV207
単位数	1.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	春B集中
担当教員	吉田 正人, 飯田 義彦, 池田 真利子
授業概要	この授業では、地球環境の保全、遺産の保護と開発に関する国際条約と、世界中の様々な国々の事例研究を通じて、急速に変化する社会において、どのように遺産と共存し、環境を保全するとともに、持続的な社会を実現するかを学ぶ。
備考	外部講師 : 香坂玲氏、堀江正彦氏 英語で授業。 6/4-6/5
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	
授業の到達目標(学修成果)	
授業計画	
成績評価方法	
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等(連絡先含む)	
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)	
キーワード	

授業科目名	Advanced Practice of Heritage Studies (市民参加研究演習)
科目番号	OATV209
単位数	3.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	通年集中
担当教員	池田 真利子
授業概要	<p>本演習は「World Heritage and Civil Participation(世界遺産と市民参加)」で学んだ国内外の学術的視点や知識に基づき、海外（主としてドイツ等の西ヨーロッパ）や国内のフィールドを実際に訪れ、より実践的に研究方法を習得することを目的とする。本科目のねらいは、OATV204「World Heritage and Civil Participation(世界遺産と市民参加)」で学んだ研究視点や各年設定のテーマに関連し、その研究方法やデータ取得方法を大学/現地フィールドで具体的かつ実践的に学ぶことである。学生は地域調査の基礎を学ぶだけでなく、自ら主体的にフィールド調査に取り組む経験を得ることができる。また、海外フィールド調査において、「自分が知りたいこと」の情報を得るため、英語やその他の国の言語能力を使用することで、国際的な学術議論を無理なく行うことができるようになる。</p> <p>なお2021年度は初年度であり、かつコロナの状況により、海外フィールド調査が困難な場合、グループで日本国内およびオンライン調査を行う予定である。なお本科目では、専用のタブレット端末・録画機器を最大限活用したグループ学習を行います。</p>
備考	<p>西暦奇数年度開講。</p> <p>英語で授業。</p> <p>オンライン(同時双方向型)</p> <p>対面</p>
授業方法	講義、演習及び実習・実験・実技
学位プログラム・コンピテンスとの関係	<p>【汎用コンピテンス】 知の創成力， マネージメント能力， コミュニケーション能力， リーダーシップ力， 国際性</p> <p>【専門コンピテンス】 共通知の展開力， 専門知の創造力， 共通技能の展開力， 専門技能の開発力， 国際的開発力</p>
授業の到達目標（学修成果）	<p>全60時間（今年は， 学内演習15時間・ 学外演習20時間程度・ オンライン型グループワーク25時間を予定）により，文理横断的視点と学際的科学知を実践的に習得できる。また，「知りたいこと」の手段として英語・外国語を使用することで，自然な国際的感覚が身につく。これにより，「グローバル・ヘリテージスタディーズ（世界遺産学）」のフレキシブルな体系化の可能性を探る。</p> <p>In total, 60 hours (this year, we plan to have (1) 15 hours of on-campus exercises, (2) about 20 hours of off-campus exercises, and (3) 25 hours of online group work) will enable students to practically acquire a cross-disciplinary perspective and interdisciplinary scientific knowledge. In addition, the use of English and other foreign languages as a means to "find out what you want to know" will enable students to acquire a natural sense of internationalism. In this way, the possibility of a flexible systematization of "Global Heritage Studies" will be explored.</p>
授業計画	
成績評価方法	授業内外で実施されるディスカッション中の発言や，学術調査・論文執筆を含むグループ

成績評価方法	<p>本講義の共同作業に基づき、総合的に評価します。主体的に参加することを求めます。</p> <p>Students will be assessed on the basis of what they say in discussions held both in and out of class, as well as their collaborative work in groups, including academic research and writing papers. Students are expected to participate actively.</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>地理学や人文社会科学で使用される概念説明や基礎的な人文・科学知識に関して、分からない場合には各自で文献（論文・書籍）に当たり、理解に努めて下さい。</p> <p>If you are unsure about a conceptual explanation or basic humanities/scientific knowledge used in geography or the humanities/social sciences, please consult the literature (articles, books) to help you understand it.</p>
教材・参考文献・配付資料等	<p>各回で指示・配布します。 / Instructions and handouts will be given at each session.</p>
オフィスアワー等（連絡先含む）	<p>連絡教員宛て（marikoi@heritage.tsukuba.ac.jp）に連絡して下さい。 / Contact to marikoi@heritage.tsukuba.ac.jp</p>
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	<p>[2021年度] 本演習は一部、英語で実施する可能性があります。 / Some lectures will be given in English.</p>
他の授業科目との関連	<p>OATV204 World Heritage and Civil Participation(世界遺産と市民参加)</p>
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	<p>なし / None</p>
キーワード	<p>市民参加，ドイツ，東京，アート，芸術，音楽，言語，活用，リユース&リサイクル，持続可能性，情報リテラシー，製図，空間科学知，無形</p>

授業科目名	美術遺産演習
科目番号	OATV305
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	秋A集中
担当教員	八木 春生
授業概要	演習(学外)。大阪市立美術館や東京国立博物館など、中国の仏教造像や陶磁器などを多く所蔵する美術館、博物館で、学芸員から説明を受けながら、作品を様々な角度から観察することを経験する。それにより、斜め上、あるいは下方、また側面からでは、正面から見たのとは異なる印象を持つことを体感し、写真ではなく実物を見ることの重要性を理解できるようになる。また作品の基本的な取り扱い方を学び、実際に作品に触れることで、目でみるだけでは理解できない情報を作品から得る方法を習得する。このような経験から、それらの作品を作った工人たちが、どのような角度で見られることや手取りを意識していたかを考えられるようになる。そして美術作品の時代性だけでなく、工人達の意図をより正しく理解できるようにする。
備考	01EC562と同一。 対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	知の活用力、マネージメント能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、国際性、共通知の活用力、専門知の活用力、共通技能の活用力、専門技能の活用力、国際実践力
授業の到達目標(学修成果)	学生は、日本国内の美術館で、仏教美術をはじめとする中国美術がどのように展示、収蔵されているかを具体的に知り、また美術作品保護のためにいかなる工夫がなされているかを見ることで、美術作品がどのように保護、活用されているかを理解することができる。また、展覧会あるいは展示の内容について美術館の学芸員から説明を受けることで、美術作品の見方、見せ方について、新たな知識、観点を獲得できる。
授業計画	大阪市立美術館や大阪東洋陶磁美術館などを訪問し、作品を熟覧する機会を得るとともに、開催中の展覧会や展示の内容、その展示の意図について担当学芸員から話を聞く。 第1回ガイダンス
成績評価方法	演習中の積極性(30%)とレポート(70%)の割合で評価する。レポートは、演習の内容を理解し、授業目標に到達していることを評価基準とする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	演習以前に訪問先の美術館についてホームページ等で、その成り立ちや所蔵作品について、基礎的な知識を得るようにする。また開催されている展覧会に関連する文献を配布するので、演習までにそれを読み、ある程度の知識を得て、担当学芸員に質問をできるように準備させる。
教材・参考文献・配付資料等	訪問先の美術館や展覧会の内容にあわせ、適宜指示、配布する。
オフィスアワー等(連絡先含む)	火曜日 11時-12時、haygi@heritage.tsukuba.ac.jp オフィスアワー以外に面接を希望する学生のためには、ガイダンスの時に日時を決める。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	演習時には、ノートをとる際、作品保護のため、ボールペンとシャープペンシルの使用を禁止する。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー(TF)・ティーチング	TAによる学習指導、補助

アシスタント (TA)	
キーワード	中国美術, 美術館, 展覧会

授業科目名	保存科学演習
科目番号	OATV307
単位数	2.0 単位
標準履修年次	1・2 年次
時間割	夏季休業中集中
担当教員	松井 敏也
授業概要	保存対象の活用状況や管理状態、地域の関わり方の調査から得られる課題を整理し、対象文化財の保存科学的調査を実施する。保存科学研究の基本である、材質分析・構造調査・保存環境の調査方法について、調査機器を用いての現地研修により習得させ、その分析、評価を関連分野の研究成果等と併せて総合的に考究させることを目指す。また世界遺産をはじめとする遺跡や博物館において、専門家による指導助言を受けながら現場レベルの保存科学実務を学び、習得した技術や能力をさらに発展させる。
備考	対面
授業方法	演習
学位プログラム・コンピテンスとの関係	「1. 知の活用力」、「2. マネジメント能力」、「3. コミュニケーション能力」、「4. チームワーク力」、「5. 国際性」、「6. 共通の活用力」、「7. 専門知の活用力」、「8. 共通技能の活用力」、「9. 専門技能の活用力」、「10. 国際実践力」に関連する
授業の到達目標（学修成果）	保存科学研究の基本である、材質分析・構造調査・保存環境の調査方法についての現地研修を行ない、調査の基礎を修得することで、社会環境、自然環境、立地環境が異なる遺産に応じた調査方法と評価が実施できる能力を習得できるようになる。 また、各遺産の担当者らへの説明を通して、その保存科学的調査が抱える課題を把握し、その解決を図る力を習得する。保存科学的調査研究の基礎を知り、文化財の状態に応じた自然科学調査方法の評価手法を習得できる。
授業計画	文化財の基本的材質調査方法と劣化状態の観察方法などを材料科学分析などにより実施、評価する。主に遺跡や博物館において実施し、修復現場の感覚を養う。 2021年度夏季休暇中に実施する。本年度は 東京湾要塞遺跡、富岡製糸場、京都文化博物館などで実施する。 2020 年度は以下の箇所で開催した ・整備中の古墳公園および石室の保存処置(狛江市) ・東京湾要塞遺跡におけるレンガの含水率および劣化状態調査 ・博物館環境調査 ・石造物の診断調査 ・屋外展示遺跡の活用調査
成績評価方法	複数の演習実施現場において与えられた課題に対するレポートで評価する
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	対象となる遺跡の基本情報を事前にWEB や公開されている資料などから収集し、その保存すべき価値を理解して臨むこと
教材・参考文献・配付資料等	
オフィスアワー等（連絡先含む）	
その他（受講生にのぞ	

むことや受講上の注意 点等)	
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー (TF)・ティーチング アシスタント(TA)	
キーワード	